

ドラえもんが教えてくれたこと

村上市立朝日中学校三年 山賀 恵実子

『無敵の勇者がついにあの強敵の魔王との対決。しかし、勇者は右腕を負傷している。仲間はみんな倒された。圧倒的な力を持って魔王。勇者絶体絶命！』と次のページをめくろうとしたその時、

「あんた、まだ遊んでいるの。漫画ばかり見ていないで、勉強しなさい。」と家族に言われたことはありませんか。私は一度読み始めると読み終わるまで集中してしまうので母に言われることがあります。大人はよく、「本を読みなさい」と言うような気がします。学校では「朝読書」はありますが、漫画を持ち込むと先生に没集されてしまいます。これらについて、私は「なぜ活字の本は良くて、漫画はダメなんだろう。」と疑問に思います。なぜ本を読むことは勉強で漫画は娯楽なのでしょう。私は違うと思います。

二年生の時、ラーメン屋に行き、なにげなく本棚にあった『ドラえもん』の単行本を手に取りました。パラパラとページをめくっていると、ある一コマが目にとまりました。それは、夢の中で良い思いをしたのび太君が夢と現実の落差に嘆き、せめて夢の中だけでもいい格好をしたいとドラえもんに懇願した時、のび太君にドラえもんがかつを入れているシーンでした。

「いくら夢の世界に逃げても、さめたらみじめになるだけじゃないか!!もっと現実世界で頑張らなくちゃ。」

はっとしました。まさに自分に言われているような、心を打たれる感覚でした。感動して思わず携帯電話で画像を撮影し、保存してしまう程でした。今でもその画像は削除せずによく見えています。ちょうどその頃、部活動では、友達がどんどん上手になっているのに、私はなかなか上手になれなくて不安や焦りを感じ、勉強では、分からないところをそのままにしておいたり、授業中にいねむりし、ノートをとらないこともありました。勉強をさぼっていてもテストはやってくる。テストの点は下がる一方でした。私は嫌なことがあると自分の力で解決しようとせず、布団にもぐって寝て忘れてしまおうとする癖がありました。朝になっても現状は変わらない。分かっているはずなのに。現実から目をそらしていた私をドラえもんが変えてくれました。それからは部活動や勉強にも積極的に取り組むようになれたと思います。分からない問題は先生に質問して解き方をちゃんと覚えるようにしました。テスト前には、小テストのプリントを解き、まちがった問題を正解するまで何度もやり、ノートやワークの提出期限も忘れないように心がけました。もし、この漫画に出会わなければ、同じ日々を繰り返していたかもしれませぬ。今では弱気になった時に自分を励ましてくれる大切な言葉です。きっとこれからの人生でも私の支えになってくれるでしょう。

また、実際に勉強面でも教材として漫画は使われています。道徳の授業で同じ作品である『ドラえもん』の最終回という同人作品を読みました。そこでは、大切な人を失った悲しみと大切な人に会いたい一心で頑張り、達成できた時の喜びが印象的でした。愛や友情のためならば、こんなにも人は変われるのかと思いました。

漫画だからこそ、キャラクターや絵が文章だけでは表しきれない世界観や雰囲気をつくりだし、感動や面白さが生まれるのだと思います。

漫画は時に先生のように、自分の心の迷いの道しるべになってくれたり、また時には友達のように笑わせてくれます。紙の中の学校のような感じです。学校には色々な性格の子がいて漫画も色々なジャンルがあります。「実生活」では味わえない大切な勉強の一つだと思います。

人は成長していきます。日々心が変化していくでしょう。一度読んだ作品でも、また読み返すと、前とは違った印象や感動を与えてくれるでしょう。漫画、小説にこだわらず、多くの作品に触れることで「今の自分」に必要な言葉が見つかるかもしれません。みなさんも探してみてはいかがでしょうか。